

令和4年度藤白台地区タウンミーティング開催報告

日時：令和4年（2022年）7月3日（日）
午前10時30分から正午まで
場所：藤白台市民ホール

藤白台市民ホールにおいて、「地域の子育て」をテーマとするタウンミーティングを開催し、たくさんの方にご来場いただきました。この日は、市長が、『データに基づく吹田市の今とこれから』と題したスライドを用い、「吹田市はどんな街？」「新たな校区設定」について講演し、参加者の皆さんとの質疑応答を行いました。

1 「吹田市はどんな街？」

様々なデータに基づき、吹田市の現状と課題、まちづくりの進捗状況について具体例を交えて解説しました。

2 「新たな校区設定」

学校の大規模校化、小規模校化によって起きる問題、新たに校区設定が必要となる理由について、分かりやすく説明しました。



3 質疑応答の主な内容

参加者 1. 市長は、藤白台小学校の生徒が増えることについて負のイメージを持たれている。市長の背後に掲示されている写真に記録された約40年前の藤白台小学校は、教育委員会が人口推計する令和8年4月時点くらいの生徒数だった。時代が変わることによってやり方も変えていく必要はあるが、負のイメージで捉えるのではなく、大規模校には大規模校なりのやり方があるのではないかと。

2. 青山台中学校における、藤白台小学校と青山台小学校の生徒比率のお話は、私は青山台中学校の校長に事前に、そのような話は一切ないと確認している。卒業した小学校がどちらでも分け隔てなくみんな仲良く取り組んでいる、ということを知りながら直接聞いていた。負のイメージを植え付けるのはどうなのかという想いで御意見を伺っていた。

市長 1. 私は、この写真のような学校の状態を健全と思わない。絶対に望ましくない。40年前の状況は短期間に大勢の家族とその子供たちを受入れたニュータウン開発の影響によるもので、どうしようもなかった。子供たちを何とか藤白台小学校に受入れたのがこの写真の様子で、これは子供にとって望ましくない状態であると認識している。

2. 私も直接、校長とお話している。先生が分け隔てすることは無い。分け隔てするのは子供である、という事を御理解いただきたい。

参加者 1. 藤白台1丁目が北山田小学校に校区変更となる噂が出て心配している。

2. 藤白台小学校が大規模校化するとわかっていて開発を進めるのはなぜか。

- 市長** 1. 藤白台1丁目が北山田小学校に校区変更となることは明確に否定する。
国循跡地を青山台小学校に校区設定することは議会においても答弁している。
2. 開発事業者には開発の自由というものがある。訴訟リスクもあり、強制はできないということを御理解いただきたい。

参加者 会場に入った時、校区変更反対一色であることに違和感があった。私は、市が考えていることの方に合理性があると思っており、賛成である。今日の話を知ることができて良かった。

市長 ありがとうございます。

参加者 校区設定の提案は、通学路における歩道橋の増設など、市から、交通安全等の施策の提示があってから行われるべきものだ。これまでの、世帯数や生徒数の増加といった、数値だけの説明では強引なやり方であるように思う。

私的事情や自ら転校を希望するならまだしも、強制的に転校を余儀なくされることに抵抗を感じる親がいることは必然だ。在學生は転校せず卒業でき、兄弟姉妹も上の子と同じ学校に通えることの確約をいただきたい。保護者として納得しづらい現状であり、市長の考えを示してほしい。

市長 通学路の交通安全については、地域の方が黄色い旗を持って子どもを守ってくれている。校区が変わることになっても引き続き担っていただけることに期待したい。市内には、ほかにも校区と地域の活動範囲が異なるところがあるので、先例を参考にしながら調整を進めてもらいたい。

通学路の安全確認については必ず行う。照明、防犯カメラの設置についても必要であれば行う。歩道橋の設置はバリアフリーの観点から行わない。

国循跡地から藤白台小学校までは青山台小学校までと比べて倍の距離がある。公園を通る可能性もあり、公園は暗く、犯罪が起こりやすい。そういうところも含めてどういう通学路が良いか、どう安全度を高めるかということでは全力を尽くす。ただ、マンパワーで安全を確保するところは、是非、引き続きお願いしたい。現在、国循跡地の北側にお住いの世帯の在學生は、青山台小学校か藤白台小学校か選択出来るよう配慮すると聞いている。

参加者 朝、子供の通学の見守りをしていると子供たちは元気よく挨拶してくれる。

国循跡地に700世帯が出来ることで、子供たちの通学時間帯に通勤の車が200台、300台と出ることになると思われる。市長が考える子供の安心安全について話を聞きたい。

市長 平素からありがとうございます。そういう見守りをいただいているお陰で交通事故のリスクが小さくなっている。大人が旗を持って立っていたら運転する側も気づく確率が高まる。見守りの意義はそこにあると思っている。そういった役割は引き続き担っていただきたい。朝は一斉に通学するので統制を取りやすいが、下校は児童によって時間帯が異なり、目の届かない状況が生じることだ。見守る目をたくさん持つという事が重要であり、地域、家庭、学校の3者が力を合

わせて子供の安全を守らなければならない。防犯の取組としては、公園のトイレで犯罪が多発しているため、吹田警察と協力して防犯カメラを取り付けている。

参加者 藤白台5丁目を青山台小学校に校区設定しても教室は一杯で、更に児童が増えていく状況だ。プール授業について、隣の小学校では週3回行っているのに比べ、藤白台小学校では週に1回である。これをどのように改善していく予定であるか、何か対策を考えているのか。

市長 教育機会の均等が図れておらず、まさに大規模校の問題はそこにあると思っている。今後も続けて藤白台小学校の児童数が増え続けるのであれば、藤白台第二小学校を作らなければならないが、人口予測では2030年以降減少すると出ている。今後も増え続けると予測される場合は校区変更をしなければならない。

校区変更のスケジュールは白紙に戻すことにしたが、計画は白紙にしていない。校区変更については地域の皆さんの御理解が必要だと思っている。校区設定というのは別の話で、そこをご理解いただきたい。

参加者 市長は、通学の安全に関して登校時より下校時に問題があると話されたが、地域としては登校時の方が多く問題が発生すると思っている。校区が青山台小学校になると子供たちは府道を渡らなければならない。子供たちが一斉に道路を渡る時間帯、5丁目に来る住宅から出勤される方が車で一斉に通勤される時間帯があることで、安全対策についての意見書、質問状を教育委員会へ提出した。

各所管から返ってきた回答は、いずれも通学に関して見直しを行う、検討を行うといった内容のものばかりで問題について把握しておらず、これから考えるというものであった。結局のところ、教育委員会は学校規模適正化を推し進めることに躍起になっているが、具体的な問題が各所管と共有されていない、各所管が自分事として考えていない、これらのことが説明不足と感じる要因であるように思う。

教育委員会は、学校規模適正化を決定することだけに固執していると捉えているが、どうか。

市長 非常に重要な質問をいただいた。整理をさせていただくと、教育委員会と行政は対等な立場です。教育問題は教育委員会が決定します。行政が教育の中身について口を出すことはできない。一方、地域の方々への対応やその影響に対して実行する権限は市長にある。

行政と教育委員会で協力して取り組まなければいけない内容であるが、先に教育委員会が地域の声を聴くことなく計画を進めたことを無理やりと感じられたのは当然だと思う。それで、校区変更に関しては一旦止めたが、新たに行う校区設定に関しては別だ。それは、地区の問題ではなくて教育委員会の問題。

私が、職員に各分野の質問をするとみんな答えを持っていた。説明会などでかなり強く責められて口ごもってしまったことが、余計、不信感を招いてしまった。

今日は教育委員会の立場と行政の立場、地域の皆さんの立場、これをすり合わせることで少しでも出来ればと思い、藤白台に来させていただいた。少しでも御理解が深まればありがたく思う。